



お客さまが暮らす 社会・環境との絆

安心して豊かに暮らせる「社会」と「環境」を育みます

当社では、生命保険本来の相互扶助の精神に基づいて、商品・サービスを提供するだけでなく、さまざまな社会貢献活動や環境保全活動などに取り組んでいます。

トピックス:

- 障がいのある方々のための「コミュニケーション支援ボード」を全国の警察に寄贈しました。 →P52
- 「海の環境工作教室」を開催しました。 →P52
- 子どもたちを守る「地域安全マップづくり教室」を開始しました。 →P54

社会貢献活動の考え方

会社、従業員、財団などが継続的にさまざまな社会貢献活動に取り組むとともに、国内外で発生した大規模災害の被災地・被災国への復興支援に努めています。

息の長い社会貢献活動を
めざしています

会社、従業員、財団 ——三つの柱で

当社は安心して豊かに暮らせる社会を実現するために「社会貢献活動基本方針」を制定し、四つの観点を重視して、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

その際、「会社の実施する事業」「従業員の参加で推進する事業」「財団などが実施する事業」を三つの柱に据え、継続性と安定性を重視しながら、息の長い活動をめざしています。

社会貢献活動基本方針

- 社会福祉分野における重点的な展開
相互扶助の精神に基づき、クオリティの高い支援を行ないます。とくに、障がいのある人および高齢者への福祉面に重点を置いています。
- 従業員参加型の地域貢献活動
従業員がボランティアとして行なう地域貢献活動を大きな柱に位置付けています。
- 公共性と先見性
社会貢献活動の展開にあたり公共性を重視するのはもちろんのこと、NPOなどの市民参加型福祉団体とも連携し、社会のニーズに的確に応えます。
- 事業の継続性と安定性
社会貢献活動の継続性と安定性を重視し、息の長い活動に取り組めます。

被災地や被災国へ
義援金を寄付しています

救援・復興支援のために

当社では、国内外で大きな自然災害が起きた場合、人道上的救援・復興支援を目的として、会社および従業員募金から被災地や被災国などに義援金を寄付しています。

2007年4月から2008年9月までの寄付総額は2,571万8,883円でした。

災害時の寄付（2007年4月～2008年9月）

実施時期	対象となった災害	寄付先
2007年4月	能登半島沖地震災害	社会福祉法人 石川県共同募金会
2007年7月	熊本県大雨災害	社会福祉法人 熊本県共同募金会
2007年7月	新潟県中越沖地震災害	社会福祉法人 新潟県共同募金会
2008年6月	中国・四川省大地震災害	中華人民共和国駐日本国大使館
2008年6月	ミャンマーサイクロン災害	日本赤十字社
2008年6月	岩手・宮城内陸地震災害	社会福祉法人 宮城県共同募金会 社会福祉法人 岩手県共同募金会
2008年8月	富山県7月大雨災害	日本赤十字社 富山県支部
2008年8月	金沢豪雨災害	日本赤十字社 石川県支部
2008年9月	8.28愛知県集中豪雨災害	社会福祉法人 愛知県共同募金会

財団のご紹介



- (財)明治安田厚生事業団
1962年6月設立。財団の新宿健診センターでの健康診断や、体力医学研究所の心身の健康増進に関する研究を通して、「健康な長寿社会づくり」に貢献しています。



- (財)明治安田こころの健康財団
1965年3月設立。子ども療育相談等を受け付けるとともに、精神保健分野の専門家育成のための研修活動などを実施し、子どもたちの心の健全育成に貢献しています。



- (財)明治安田クオリティオブライフ文化財団
1991年6月設立。若手クラシック音楽家の海外留学や、地域の伝統文化の後継者育成活動を助成し、生活の質の向上とわが国文化の発展に貢献しています。

埼玉県鶴ヶ島市脚折町
「脚折雨乞保存会」

障がいのある方とのふれあいを大切に

相互扶助の精神に基づいて、障がいのある方々が安心して豊かに暮らせるようにさまざまな活動を通して支援しています。

「ふれあいコンサート」を開催しています

25年間で103校の障がいのある子どもたちに「生の音楽」を届ける

歌手の鳥塚しげきさんとその仲間が全国の養護学校や特別支援学校を訪問する「ふれあいコンサート」を1984年から開催しています。このコンサートは、障がいがあり日頃コンサートに行く機会が少ない子どもたちに「生の音楽」を楽しんでもらうことを目的に開催しています。

会場設営から音響機材の設置まで鳥塚さんと当社従業員だけで行っており、開催費用は当社従業員の募金でまかっています。



熊本県立熊本養護学校江津湖分教室でのふれあいコンサート



開催校のみなさま、開催ホスト支社からの声

熊本県立熊本養護学校第Ⅱ学部長 蔵田 伸子 氏

「生の音楽」をなかなか聴くことのできない子どもたちが、「とりさん」の楽しいお話や歌の魅力に引き込まれ、どの子も笑顔いっぱい聴いていました。知っている曲は口ずさんだり、体でリズムを取ったり……本当に楽しいひとときをありがとうございました。

熊本支社長 恒松 尚

子どもたち全員が車いすやベッドからの視聴だったため、はたして音楽を楽しんでもらえるか心配しましたが、コンサートが始まると、それぞれが精一杯、リズムをとったり笑顔で声を出したりでどんどん盛り上がってきました。生の音楽の鼓動を感じてくれているのが体感できました。

「エイブルアート・オンステージ」を実施しています

障がいのある方々が舞台芸術をつくる

障がいのある方々がプロの舞台人や芸術家と協力して今までの常識を覆すような舞台作品をつくりだす「エイブルアート・オンステージ」を実施しています。これまでに全国延べ34地域で演劇やダンス、音楽などの公演を実施してきました。

2008年2月には「コラボ・シアターフェスティバル2007」を開催し、みやざき◎まあるい劇場の公演「隣の町」とシンポジウムを開きました。



「コラボ・シアターフェスティバル2007」での、みやざき◎まあるい劇場の公演「隣の町」



シンポジウム「エイブルアート・オンステージを通じて考える舞台の可能性」

演出者からの声

明日を生きる力をもらいました

「可能性」は、人が生きることに見出す糧だと思います。今回、エイブルアート・オンステージに参加して、たくさんの「可能性」に出会い、みんながワクワクさせてもらいました。

「私にはまだこんなことができる」「演劇にはまだこんなことができる」、こうしたみんなの思いが、それぞれの明日を生きる力になったのではないのでしょうか。



「隣の町」作・演出
宮崎県立芸術劇場
演劇ディレクター
永山 智行 氏

「コミュニケーション支援ボード」を全国に広げています

障がいのある方の意思伝達のために

「コミュニケーション支援ボード」は、自閉症の方や知的障がいのある方などが自分の意思を相手に伝えるためのボードです。ボード上の「はい」「いいえ」「たべたい」「トイレ」などの言葉が書かれたイラストを指し示すことで意思を伝えます。

2003年に「明治安田こころの健康財団」が全国知的障害養護学校長会(当時)と協力して制作し、全国に15万部を配布しました。その後も、コンビニエンスストア用、災害用、鉄道駅用などの「コミュニケーション支援ボード」を新たに開発し全国に広げてきました。

警察署、交番、パトカーにも

2008年6月には「コミュニケーション支援ボード」の普及をさらに進めることを目的に、警察庁などと協力し現場の警察官の要望も取り入れて「警察版コミュニケーション支援ボード」を制作しました。

この支援ボードは警視庁と各道府県警察に寄贈。警察署、交番、パトカーなどに備えられています。



支援ボードには、日本語とイラストのほか、英語、ハンガール、中国語などもあわせて表示しています。

NPOと共同で「海の環境工作教室」を開催しています

障がいのある方とアート制作を通じて、海の環境美化を訴える

NPO日本渚の美術協会や障がいのある人たちとともに、海岸清掃を行ない、清掃を通じて手に入れた貝殻やガラス、海藻などを使ってアート作品を制作する「海の環境工作教室」を開催しています。

2008年は11月3日に、千葉県富津海岸で障がいのある人や社内外のボランティア総勢50数人で実施しました。

「シーボーンアート展」で作品を展示

12月1～6日には「シーボーンアート展」を開催し、「海の環境工作教室」で参加者が制作した作品を展示しました。

またこの展示会では、NPO日本渚の美術協会の会員が今までに制作した作品数十点とともに、海岸清掃で収集した空ペットボトル3,000本で制作された飛行船を展示し、海の環境美化を訴えました。

注)本展示会は千代田区が開催した「ちよだボランティアウィーク2008」の一環として開催しました。



海岸の清掃では、ゴミの多さに改めてビックリ



それぞれが思いのままに作品を制作する「海の環境工作教室」



丸の内マイプラザアトリウムでの「シーボーンアート展」

NPO法人の方からのコメント

NPO日本渚の美術協会 代表 本間 清 氏

私たちは海岸漂着物を「海からの贈り物」と称し、アート創作を手段として海浜美化啓発活動をしています。「海から生まれた美術」なので「Sea Born Art(シーボーンアート)」と名付けました。これらの作品から「海からのメッセージ」を感じ取ってもらえたら幸いです。

できた作品の数だけ海がきれいになります。そして海に対する思いやりの心を持った仲間が増えることを願っています。

子どもの命・安全を守る活動

全国各地で事業を営む企業として地域の安全・安心に貢献できるよう、行政や地域の方々と連携を図りながらさまざまな活動を展開しています。

日々の営業活動のなかで
地域を見守っています

地域の防犯に貢献するために

子どもたちが登下校中に事件・事故に遭う事態を防ぐために、登下校の時間帯に地域で営業活動をしている当社としてできることはないか——。そのような思いから、2006年6月から明治安田生命労働組合と連携して「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動に取り組んでいます。

この活動で、MYライフプランアドバイザーは、地域で営業活動をするときにネームタグを携帯して地域防犯への意識を高めています。これには犯罪行為へのけん制効果も期待されています。また、携帯電話に最寄りの警察などの電話番号を登録するほか、不測の事態に備えて防犯笛を携帯し、危険を察知した場合などにはただちに地域行政や近隣へ情報を伝達して連携できる態勢をとっています。



ネームタグ・防犯笛

全国で「こども110番」を設置

全国各地で警察と連携して、立地などが適した営業所に「こども110番」を設置し、子どもの安全に貢献できるよう努めています。

「だいたいようぶキャンペーン」への協賛

“安心安全の輪を広げよう”をテーマに子どもを犯罪や災害から守る地域づくりをめざす「だいたいようぶキャンペーン」に2007年10月から協賛しています。

このキャンペーンの一環として、2008年から当社が主催して支社での「地域安全マップづくり教室」を実施しています(次ページご参照)。



ポスター

こども110番

万が一の場合、子どもたちが安心して助けを求めることができる民家・商店・事業所などのことです。

だいたいようぶキャンペーン

「だいたいようぶキャンペーン実行委員会」(会長 國松孝次<元警察庁長官、認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク理事長>)が主催するキャンペーンです。



1965年から毎春、新入学児童へ「黄色いワッペン」を贈呈しています

登下校中の交通安全キャンペーンの一環として、1965年以来、全国の新入学児童を対象とした「黄色いワッペン」の贈呈事業を実施しています。

44回目となる2008年春の贈呈事業では、全国で約120万人の新入学児童に「黄色いワッペン」を贈るとともに、各地で「交通安全教室」を実施しました。

注)この事業は、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社損害保険ジャパン、第一生命保険相互会社と共同で実施しています。



東京での交通安全教室(2008年3月)

「地域安全マップづくり
教室」を開催しています

子どもたちの自衛能力を 養うために

「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動を発展させて、2008年から「地域安全マップづくり教室」を開催しています(後援:だいたいようぶキャンペーン実行委員会、協力:NPO法人地域安全マップ協会)。

「地域安全マップづくり」は「犯罪機会論」を応用した教育プログラムであり、犯罪が起きやすい「場所」を子どもたちが自ら見分け、危険を回避できるようにしようというものです。考案者である立正大学の小宮信夫教授らが、全国各地で教育機関や警察と連携しながら普及を進めています。当社が主催する教室では、小宮教授を講師に招いて、親子での参加を公募。参加者は、講義とフィールドワーク、マップづくりを通して「危険な場所」を避けるための考え方を学びます。「危険な場所」の説明が「入りやすい」「見えにくい」という二つのキーワードでなされ、子どもたちにも容易に理解できます。

2008年1月に千住支社、9月に八王子支社、江東支社で開催し、合計で子ども103人、保護者65人が参加しました。地域の安全について親子と一緒に考え、学ぶ機会として、今後も引き続き全国各地で開催していきます。



小宮先生の講義。わかりやすい説明に子どもたちの理解が進みます。



フィールドワークの様子

犯罪機会論

人に犯罪の機会を与えないことによって犯罪を未然に防止しようとする考え方。犯罪傾向のある人の人格を改善しようとする「犯罪原因論」の限界を認識した欧米諸国で主流となっています。



マップづくり。撮影してきた写真に説明を書き添えることで学習効果が高まります。



参加者の声

危険な場所を見分ける専門家の視点を学ぶことができました

託児関連の仕事をしている関係で「地域安全マップ」のことは聞いたことがありました。子どもには、連れ去りなどに遭わないよう小学校に上がるときに注意を与えていましたが、今回、参加してみて、プロの視点での危険な要因の見方を知ることができました。親子で一緒に学べるのも有意義でした。



千葉県在住
飯島さん親子

講師の方の声

各地での指導や情報発信に、企業の協力を期待しています

「不審者」を警戒するという従来の考え方には、本当に犯罪傾向のある人を犯行前に正確に特定しづらいという問題があります。「地域安全マップづくり」は、いかなる人にも犯行の場所(機会)を与えないという危機回避策を身に付けようという取り組みです。

普及にあたっては、この考え方を正しく理解した指導者の育成が重要です。従業員のみなさんには、犯罪機会論に触れてご自身の安全を図ると同時に、お住まいの地域で学校の指導に協力したり、営業活動で接する方々へ情報発信してくださるよう期待しています。



立正大学
文学部社会科学科教授
(社会学博士)
小宮 信夫 氏

地球環境に配慮した企業活動

オフィスが環境に与える負荷を小さくするとともに、社内外で環境教育に取り組んでいます。

環境保全意識の向上に努めています

環境絵画コンクールに協賛

当社は「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」に協賛することで、全国の小中学校の環境教育を支援しています。

“みんなでつくろう住みよい町”“みんなで守ろう大切な自然”をテーマに全国の小中学生から作品を募集し、優秀な作品を表彰しています。



2008年度「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」明治安田生命特別賞
(左)中学校の部 (右)小学校の部

環境保全の実例を社内で紹介

当社は毎年6月の環境月間に、従業員的环境意識を高めることを目的に、節電や資源再利用などの実例を紹介した環境関連ニュースをイントラネットや社内報に掲載しています。

また、2008年6月には当社は、五つの施設※で、地球温暖化防止活動の一環として全国のライトアップ施設の灯りを一斉に消す「ブラックイルミネーション2008」に参加しました。

※ 明治安田生命ビル、明治生命館、函館ビル、青山パナソニック、栄三丁目ビル、大阪梅田ビル

オフィスの環境負荷低減に取り組んでいます

地球温暖化防止のために

当社が所有している四つの主要ビル(明治安田生命ビル、明治生命館、東陽町ビル、事務センタービル)では、温室効果ガス排出量の目標値をそれぞれ定めて、各種省エネ設備の導入やその設備の効果的な運用に取り組んでいます。2007年度は、東京都新宿区にある大規模共同ビルで、建物の中央監視盤設備を更新しました。この更新で、エネルギー使用量を年間約4,800ギガジュール削減できる見込みです。

また、全国にある当社所有のビル8棟の屋上、計約4,000m²を緑化しています。屋上緑化は、ヒートアイランド現象を緩和するとともに、断熱効果によってビルの空調に使うエネルギーを減らすことができます。

水の再利用を推進

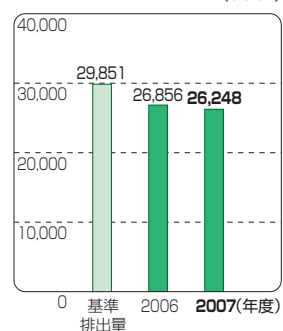
当社は環境保全の観点から水を再利用しています。

2007年度は本社機能を持つビル3棟で、上水の38%を再利用しました。



イントラネットで発信している環境ニュース

温室効果ガス総排出量(t-CO₂)の実績と目標



注) 東京都環境確保条例「地球温暖化対策計画書制度」の対象となる四つの主要ビルの合計値。そのうち最大規模の「明治安田生命ビル・明治生命館」の目標は、2010年度までに基準排出量の2.0%削減。「基準排出量」は同制度に則って過去の実績に基づき設定

ギガジュール

ジュールとはエネルギーを表す単位で、ギガジュールはその10億倍。家庭1世帯で年間に使うエネルギーは約41.2ギガジュールです。

社用車を低燃費車に

当社では、社用車を順次、低燃費車(2010年度燃費基準達成車)に切り替えています。

2007年度に8台、2008年度に4台を入れ替え、低燃費車は50台と車両総数の42%を占めています。

廃棄物を分別リサイクル

当社では、本社がある明治安田生命ビルの各階に専用リサイクルボックスを設置するなど、廃棄物の分別回収やリサイクルに積極的に取り組んでいます。

2007年度のリサイクル率は93.7%に達しています。



リサイクルボックス(明治安田生命ビル)

紙使用量の削減に注力

本社では、電子文書管理システムの利用を促進するとともに、プロジェクターと複合機を導入することで紙使用量の削減に努めています。

2007年度の紙使用量は、約8,901万枚、コピー用紙の再生紙利用率は91.8%となっています。

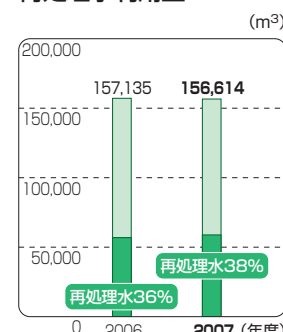
グリーン購入を増やしています

環境配慮型の事務消耗品へ

本社で使用する事務消耗品については、エコマーク商品、グリーンマーク商品、グリーン購入法適合商品などの環境配慮型商品を優先的に購入できるシステムを構築しています。

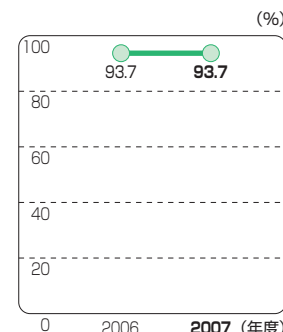
2007年度の環境配慮型商品購入率は、本社の金額ベースで67.3%となっています。今後も事務消耗品での環境配慮型商品の購入をさらに進めていきます。

水使用量と再処理水利用量



注) 明治安田生命ビル、明治生命館、事務センタービルの実績

廃棄物リサイクル率



注) 明治安田生命ビル、明治生命館の実績

従業員からの声

オフィスから発生する紙を積極的に再資源化しています

国内の紙・板紙原料の6割以上が古紙と言われ、紙の再資源化は環境保全を考えるうえで欠かせないものとなっています。

当社はコピー用紙の使用量削減(上記ご参照)に加えて、各種印刷物などの再資源化にも取り組んでいます。オフィスから発生する機密書類などを年3回一斉に回収(約130トン)して99%を再資源化。また、改訂などによって使用不能となった印刷物(約680トン)を100%再資源化しています(コーティングなどの処理物を除く)。

今後は、会社全体の印刷物総量圧縮とコピー用紙使用量削減、使用不能となって廃棄する印刷物の総量削減に取り組んでいきます。



総務部
村上 達郎